

# NPO 自立支援センター ふるさとの会

2006.03.20  
【第3号】



これはHTML形式のMAILです。オンラインで無い場合は画像が表示されない可能性があります。

[HOMEPAGE](#)

[SCHEDULE](#)

[EVENT](#)

※ふるさとの会のメールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。  
今後もふるさとの会の活動内容を定期的に情報発信させていただきたいと存じます。  
ご不要の場合はお手数ですがご返信くださいますようお願いいたします。

## INDEX

- 1: ふるさとの会職員大阪研修 参加者レポート
- 2: 地域生活支援センターすみだ 錦糸公園フリーマーケットに参加
- 3: シンポジウム参加報告

### 1.職員 大阪で研修

ホテル三晃のソックリさんが釜ヶ崎にあると聞き、意気揚々「ウェルフェアマンションおはな」玄関前に到着。

軽く深呼吸をして、おもむろに玄関の扉を開け真っ先に目に飛び込んできた光景、まるで太古の昔から当たり前のよう素知らぬ顔をしてそびえ立つワンカップの自販機にド肝を抜かれ、おっと場所を間違えたかと思いい度外に出て看板を確認する。間違いない…。「さすがカマやな～」とへたな大阪弁を吹き、再び扉を開けて帳場にいる職員の方へ挨拶をする。案内をしてくれる職員の背中を凝視しながら、ゾロゾロと付いて行った先にわれわれを待っていたのは、本、雑誌、漫画本が整然と並べられゆったりとくつろぐことのできる空間であった。羨まし～な。

前置きはさておき、「おはな」を経営されている西口さんから、ここ釜ヶ崎でいわゆる「ドヤ」から福祉マンションへ転換した経緯やサービス内容について説明を受ける。

基本的なサービス内容は、ホテル三晃と同様に利用者の生活相談や金銭・服薬管理等挙げられるが、特筆すべきは利用者の自立支援のアプローチの仕方にホテル三晃と大きな相違点があることだ。それは支援方針=利用者の地域との関わりに最も比重を置いている点、言い替えれば、人と人との関わりこそが自立支援の最たるものであると考えられている点である。

例を挙げると、ホテル三晃では生活支援の基本に食事提供を位置づけているが「おはな」では食事提供はしない。なぜなら、地域との関わりを重視しているので利用者が地域のお店で食べたり、食材を購入することによって、そのお店=地域の人たちとの交流が芽生え、その交流により地域=社会との繋がりを持つ続けることが大切である…。

また別の例を挙げると、西口さんのネットワークを使い地域の保育園や子どもたちと交流を持ち、そこで顔見知りとなった地域の子どもの視線が、利用者自らの行いを律するタガの役目をするようになると…。

話を伺いながら、「ドヤ」の廃業と再開発の時流に同期しながら街そのものが変容していつている「ヤマ」こと山谷に対して、その規模の大きさゆえ釜ヶ崎には未だ「寄せ場」の機能と「カマ」というコミュニティー意識が残っていることで、このような「おはな」の支援方針が確立していったのではないかと思えた。

イメージすると、「おはな」は「カマ」という巨大な一軒家の一室に位置し、住人は日ごと地域と呼ばれるリビングやダイニングに集いサービスを得る。一方、ホテル三晃は東京という大海を航海する客船のようなもの、「ヤマ」という地域の港に寄港し、社会サービスと呼ばれる燃料や水、食料をどんどん補給して航海を続ける。そんな地域との関わり方の違いかな？

だからか知らないけど、「おはな」を見学していて利用者の姿をあまり見かけなかった。みなさん街に繰り出して行ってしまったのだろうか？ 談話室などで利用者同士によるコテコテの大阪漫才のような会話が聞けるかと、密かに期待していたが残念だ。夜の「おはな」は、また違った顔になるのだろうか？

今後も機会があれば、研修の名を借りた「おはな」ウォッチをしてみたい。

今回の大阪研修では、自分が三晃で業務を行っている観点から各事業所を見させていただいたが、三晃と全く同じ施設はなかった。逆をいうならば、今池平和寮、おはな、大淀寮の良いところを経営の面も考慮しながら、いかに取り入れて利用者サービスにつなげて行くか。ここが今回の研修の肝になっている。

すなわち、三晃内での娯楽機会の充実、地域ノボランティアの連携、利用者動向(ニーズ)に対応できるケア

システム作りが今後の三晃での課題が明確になったことが収穫としてある。

また、織田さん(今池平和寮)、西口さん(おはな)、山本さん(大淀寮)三者が共通して言っていた最大の支援プログラム＝「人との関係」の言葉が響いた。これも三晃での利用者サービスのなかで、利用者が多くの人との関係性を構築できるプロセスをなんらかのプログラムとして考えていきたい。

最後に、全体研修などでしか顔を合わせない他事業所のメンバーと行動をいっしょにできたことが良かった。三晃でも今後、ボランティアとの連携、台東／墨田の地域生活サポートとの連携をしていく必要が生じるにあたって、事業所との連携の前に職員間の連携をとることができたのでは。ただみんな方向音痴であることが暴露されたけど…。

ところで「おはな」は、ホテル三晃のソックリさんではなかった。長州力と長州子力ほどの差か…。

(ふるさとホテル三晃 秋山雅彦)

## 2.錦糸公園フリーマーケットの報告

3月12日(日)、地域生活支援センター「すみだ」のメンバーで錦糸公園のフリーマーケットに出店をしました。出店にあたって、4人のボランティアが朝7時から積極的に手伝って下さり、また10名近くの利用者さんがフリーマーケットに顔を出してくれました。そして、当日何と37080円の売上げをあげることができたのでした。

当日ボランティアをしてくれた、移行支援(H.I)さんの感想です。

今回初めてバザーに参加させてもらいました。いろんなことの初めてづくしです。商品売ることのむずかしさ、お客さんとのやりとり、いろいろ勉強になりました。雨はふらなかつたけど、風が強くその中でみんな頑張りました。何人かの仲間が顔をみせてくれ励ましてくれてありがとうございました。

今回のバザーはなんとか成功に終わりました。この次はもっともっと頑張って大成功させたい。やろうというみんなの力が一つになり今回のバザーの成功につながったのではないのでしょうか。いろんな想いをこめて感謝します。

来月4月16日(日)にも、同じく錦糸公園での出店を予定しています。皆様、ぜひ遊びに来て下さい。商品の寄付も引き続き募集しますので、よろしくお願いいたします。

(地域生活支援センター「すみだ」)

## 3.ふるさとの会 国際シンポジウム出事例報告

この時期、各地で開催されたホームレス関係の国際シンポジウムに、日本でホームレス問題に取り組む団体の代表のひとつとして、山谷地域での現状と、特に『地域生活移行支援事業』の取り組みについて、事例報告をさせていただきました。このような機会が、大きな変換期にある支援制度などの情報共有や、様々な立場でこの問題の解決に向かっている団体との協働と連携のきっかけになればと思っています。

③のシンポジウムではパネラーから、生活保護費の支給が、現在のような一括ではなく、今後、住居費や生活扶助費などそれぞれの科目ごとに、給付をするという見直しが検討したいとの話を聞くことができました。ホームレス支援にとって、これは有効な手段となるのではないかと評価したいと考えます。

(紙面の都合で掲載できませんでしたが、事例報告の要旨をご希望の方は、事務局までお問い合わせ下さい)

### ①国際シンポジウム「日独ホームレス問題の現状と課題－相互の取り組みに学ぶ－」

主催：大阪市立大学都市研究プラザ開設委員会／ベルリン日独センター／大阪ドイツ文化センター

日時：2006年3月4日(土)10:00～19:30

場所：大阪市立大学学術情報総合センター10階 大会議室、田中記念館ホール

### ■午前の部 日独ホームレス問題専門家会議 10:00～12:00 【事例報告をしました！】

テーマ：「野宿生活者への支援：多様で創造的な仕組みづくり」

趣旨：社会の周辺に追いやられた野宿生活者に対し、野宿からの脱却を支援し社会のメインストリームに

迎え入れるにあって、支援するものにもとめられることは。ドイツ、日本それぞれのホームレス支援

活動にたずさわっている団体が一同に介し、野宿生活者支援について現場の当事者の立場から活動の紹介、日独の取り組みを比較し、討論をおこなう。

コーディネーター：中山 徹(大阪府立大学教授)、中村健吾(大阪市立大学大学院教授)

討論者：ドイツ側 ウェルナー・ユスト(カトリック社会福祉事業連盟ケルン代表)、

シュテファン・クリスティアン・シュナイダー(ホームレス自助協会 mob 創設者)

日本側 松繁逸夫(NPO釜ヶ崎支援機構)、山本憲一(自立支援センターおおよど)、ありむら潜(釜ヶ崎のまち再生フォーラム)、本田次男(きょうと夜まわりの会)、青木しげゆき(神戸の)

冬

を支える会)、本田勝(和歌山夜回りの会)、小林英夫(ふるさとの会(東京))、鈴木しもん(北九州ホームレス支援機構)  
 その他 水内俊雄(大阪市立大学教)、福原宏幸(大阪市立大学教授)、  
 嵯峨嘉子(大阪府立大学講師)、原 昌平(読売新聞)

■夕方の部 パネル・ディスカッション(基調講演と討論) 15:45-19:30

テーマ:路上生活のきびしさ、日独ホームレス問題の現状と社会の課題

趣旨:ドイツ、日本をはじめ先進諸国においても深刻な状況にあるホームレス問題解決に向けて、政府、

行政、市民、社会的な諸団体に求められているものはなにか。社会や経済の変化とホームレス問題の関わり、その解決に向けた理念と政策、そしてホームレス生活者の当事者たちとどう向き合っていくのか、当事者たちの思いは何か、ドイツと日本の取り組みをトータルに比較する中で、新しい道筋を探ってみる。

基調講演:アンティエ・フォルマー(前ドイツ連邦議会副議長)「市民社会とそれに見放された人達」

シュテファン・クリスティアン・シュナイダー(ホームレス自助協会 mob 創設者)

「ドイツにおけるホームレス問題ー現状、支援提供、アクチュアルな問題と課題についてー」

炭谷茂(環境省環境事務次官、元厚生労働省社会・援護局長)

「日本社会とホームレス問題ー問題解決に向けた理念と政策」

報告者:トーマス・ベックマン(NPO「共に寒さに向かって協会」代表)

ウェルナー・ユスト(カトリック社会福祉事業連盟ケルン代表)

「ケルン市内におけるホームレス支援の活動」

松繁逸夫(NPO釜ヶ崎支援機構事務局長「大阪市内におけるホームレス支援の活動」)

②国連ESCAP主催 日本の高齢化問題を考える円卓会議 【事例報告をしました!】

テーマ:孤立化する高齢者問題・高齢化するホームレス問題とソーシャルインクルージョンの可能性について

日時:2006年3月11日(土)

会場:清泉女子大学品川キャンパス

参加者:藤本健太郎氏(厚生労働省;大分大学教育福祉科学部に外向)

狩野信夫氏(東京都福祉保険局生活福祉部)

オサマ・ラディガン氏(国連アジア太平洋地域経済社会委員会振興社会問題局)

炭谷茂氏(環境省環境事務次官)、ロザンナ・ハガティ氏(NPOコモングランドコミュニティ代表)

山田 氏(NPO法人 釜ヶ崎支援機構理事長)、安江 鈴子氏(NPO法人 新宿ホームレス支

援機構)

小林 英夫 (NPO法人 ふるさとの会) ほか多数

③~「東京ホームレス就業支援事業推進協議会」設立記念~

国際シンポジウム「ニューヨーク、ソウル、東京におけるホームレス支援」

主催:東京都社会福祉協議会、東京ホームレス就業支援事業推進協議会

テーマ:ホームレス問題を生み出している背景は、ニューヨーク、ソウル、東京、とそれぞれ異なりますが、「豊かさの中の貧困」という現象は、世界の大都市共通の社会問題となっており、それぞれが解決に向かって苦闘している。

各国のホームレス支援の現状について、意見交換を行なうことにより、ホームレス問題の抜本的な解決に向けた、行政、民間一体となった取り組みがさらに進展することを期待し、シンポジウムを開催する。

日時:3月16日(木) 13:30~16:00(開場:13:00)

場所:社会福祉法人全国社会福祉協議会「瀬尾ホール」

シンポジスト:青山 やすし(あおやまやすし)(明治大学公共政策大学院教授、元東京都副知事)

ロザンナ・ハガティ氏(NPOコモングランドコミュニティ代表)

全 泓奎(ジョンホンギョ):日本福祉大学21世紀COEプログラム 主任研究員

岩田 正美(日本女子大学教授)

発行元:特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会

〒111-0031東京都台東区千束4-39-6

TEL:03-3876-8150 FAX:03-3876-7950